

## 【就労事例部門】

### MEP賞 芳村 涼介

## 自分の強みを活かして視覚障がい者の 業務領域を広げる「研究職としての働き方」

現在、私は企業で論文や学会発表などの業務を行っています。

生まれつきの弱視があり、移動や行動に制限を受ける生活を送っておりました。

そのような中で、大学進学の際、自分自身のやりたいこと・何ができるかを考えた時、福祉工学の発展に貢献したいと思い、福祉工学・情報科がある大学に進学しました。大学では、当事者の目線から障がい福祉の研究を行い、学会や研究会で学生奨励賞を頂きました。

これら経験で培った論文執筆の能力やプログラミング能力を活かし、現在では、コンピュータセキュリティの分野で論文執筆やカンファレンスへの登壇を行っています。

もちろん、図表の作成やレイアウトなどのビジュアル面など、一人ではできない部分があります。しかし、同じメンバーや上司のサポートを受け、全体として一つの成果として対外に発表する。そういった形で企業に社会に貢献できているという実感が現在の仕事へのモチベーションややりがいに繋がっています。

論文執筆と聞くと非常に難しいように感じますが、研究や文章の作成に必ずしも視力が必要なく、障がい者の職域の一つとして有用であると私は考えています。

私自身が研究職として働き、成果を残すことで、視覚障がい者の職域の拡大に寄与していきたいです。

#### 審査員コメント

研究・論文の学術業務が視覚障害者に向いている、というのは画期的でとても有意義な事例です。自分のやりたいことを実現してこられた道のりは、簡単なものではなかったと拝察します。文面から感じられる意欲と自信はそれを乗り越えてきたからこそなのでしょう。やりたいことを諦める必要はない、可能性は無限大だと感じさせてくれるこの案件を、優れた先行事例として推薦します。今後のご活躍を期待しています。



#### 芳村 涼介

- ・筑波技術大学 保健科学部 情報システム学科 22年3月卒
- ・株式会社ラック 22年4月入社
- ・社会人2年目

現在はコンピュータセキュリティの分野で研究・論文執筆やカンファレンスへの登壇などを行っている。また、障がい者のインターンシップ受け入れの際に、受け入れた学生の主なサポートを行っている。